

入居者交流 楽しむアパート

上田中心部に来春登場

上田市中心部の材木町に来春、入居者同士の交流やコミュニケーションを重視した賃貸アパートが登場する。市内で賃貸業を営む「サトー・レジデンス（上田市）」が、

ではプライベート空間を極力少なくして共用空間を最大限確保する物件が増えつつあるが、上田では珍しいのではないかと

高齢者や若者が交流しながら暮らしを楽しめる物件を」と計画。居住棟を囲む場所にステージのある中庭を設ける。入居者のほか、近隣住民らにも多目的に利用してもらうことを想定し、「煩わしさも楽しさにも変わるようなアパートを目指したい」としている。

サトー・レジデンスは、市内に約200戸の賃貸物件を持つ。佐藤隆平社長（63）は、多くの世代を引きつけられる賃貸住宅の特徴として「共用スペース」に着目。入居者同士の交流が盛んなアパートのイメージを膨らませた。「都会



上田市中心部の材木町のアパート建設予定地。奥にある既存のアパートを改修し、別に3棟を新設して中心に中庭を設ける

中庭にステージ 映像映しスポーツ観戦も

予定地は市立上田図書館に近い住宅街にあり、敷地面積は約1700平方メートル。さくら都市総合研究所（長野市）が企画し、既に着工した。サトー・レジデンスの既存物件を改修するほか、新たに取得した隣接の市有地に鉄筋造りの3棟を新設して計38戸を計画。この4棟を取り囲むスペースに三角形の「コミュニティガーデン」（約120平方メートル）を整備する。ガーデンにはステージを設けて発表ができるようにし、建物の壁面に映像を映してスポーツ観戦や映画鑑賞などもできるようにする。佐藤さんは「定期的に地域にも開放して交流スポットに育てたい」とする。

入居者に積極的に交流してもらうため、紹介業者には近所付き合いが苦にならない人を優先して募ってもらう。高齢者も入居しやすいよう介護事業者と連携し、在宅介護などが必要になった場合に備えた相談態勢も整えるという。